

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 曾於畑地かんがい農業推進センター 農業普及課

課題名① プロジェクト活動を通じた青年農業者の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	3			・生産者が課題解決を必要としている「さつまいも基腐病」についても、よく活動しており、今後の取組も意欲的である。	・今後もプロジェクト活動を通じて高い課題解決能力を持った青年農業者を育成できるよう努める。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者, 地区)の選定は適切であるか	3				
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	3				
	④活動(活動方法, 時期, 手段)は適切であるか	3				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3				
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者, 地域への波及性があるか	3			・研究会については, 更なる課題をテーマとして成長して欲しい。	・研究会では来年以降, 基腐病以外の病害や生理障害対策, 省力化などさつまいもに関する幅広いテーマで活動予定であり, 今後も研究会の活動支援を継続していく。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3				

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：曾於畑地かんがい農業推進センター 農業普及課

課題名① プロジェクト活動を通じた青年農業者の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	5			・農業経営者が減少する中、担い手確保は喫緊の重要課題。 ・課題を洗い出し、継続して取り組むことが重要。 ・担い手の育成につなげるため、確保対策の強化が必要。	・課題解決能力の向上は新規就農者が定着し、農業経営者として成長するために必要である。 ・今後、さらに様々な農業者に対してプロジェクト課題の発見から解決まで支援できるよう働きかけていく。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	4	1			
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	4	1		・課題解決の考え方は、農業だけでなく事業を行う上で大切なことなので広げて欲しい。	・プロジェクト活動の流れは農業以外の課題解決でも応用できる。そのため、農業者が課題解決のサイクルを意識しながら活動できるよう支援手法を検討していく。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	5				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	1			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	2			
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	3	2			
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	5			・農業の楽しさを通じて、農業をやりたい若者を増やして欲しい。	・プロジェクト活動が農業のやりがいや課題解決へのモチベーション向上につながるよう、今後も質の良いプロジェクト支援に努める。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	1			

プロジェクト活動を通じた 青年農業者の育成

曾於畑地かんがい農業推進センター
農業普及課 経営普及係



1

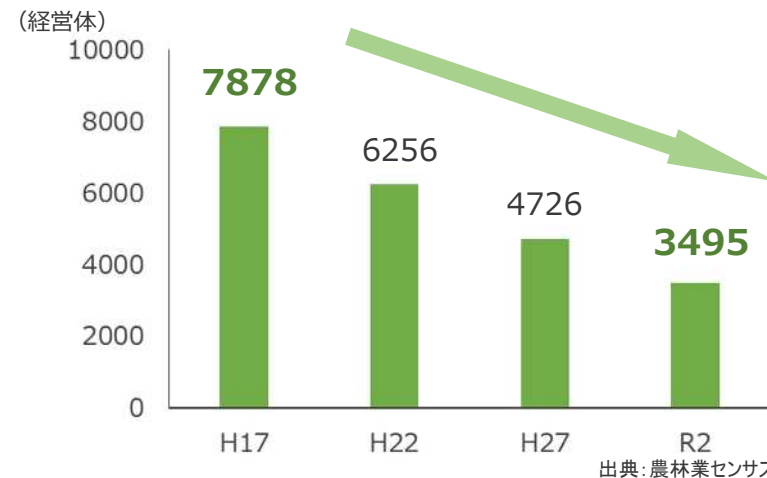
目次

- 1 課題設定の背景・支援体制
- 2 活動内容：事例紹介
個人プロジェクト／共同プロジェクト
- 3 活動の成果
- 4 活動のまとめ

2

1 課題設定の背景：曾於地区における経営体数の推移

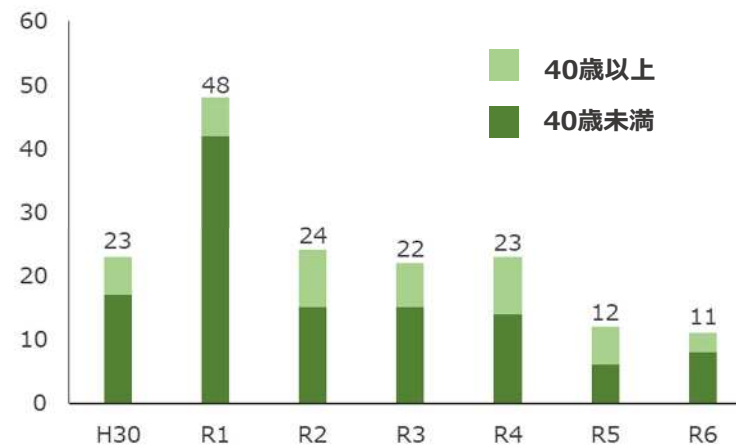
- ▶ 経営体数は年々減少（20年間でおよそ半減）
- ▶ 担い手の確保・育成が必要



3

新規就農者数の推移

- ▶ 新規就農者は減少傾向
- ▶ 新規就農者の約7割が40歳未満



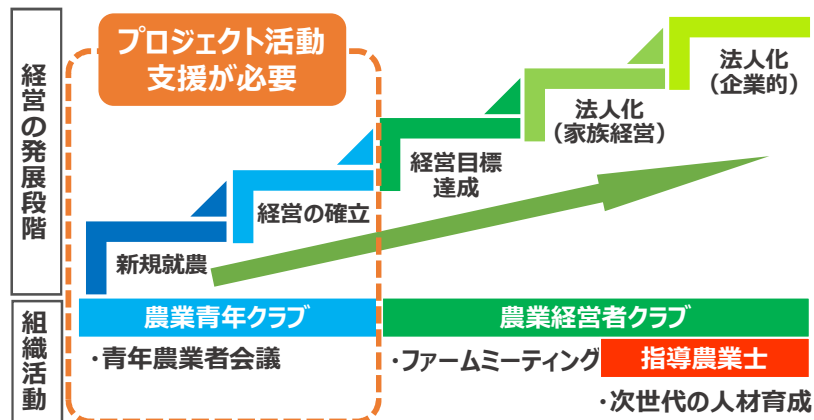
4

新規就農者・青年農業者支援の育成が重要

普及計画の「重点活動」に位置付け

課題名：持続的な産地発展に向けた人材の確保・育成

【人材確保・育成過程のイメージ】



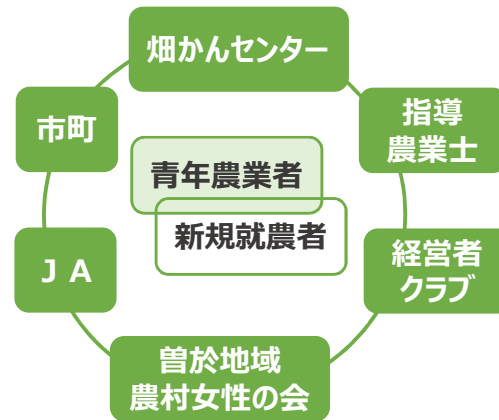
5

対象の選定と支援体制

対象：曾於地区の青年農業者82人（主に4 Hクラブ員）

取組：プロジェクト活動支援による人材育成

【支援体制図】



【支援内容】

- ▶ 課題発見の働きかけ
- ▶ 助言・指導
- ▶ モチベーション維持
- ▶ 活動へのフィードバック

7

プロジェクト活動とは

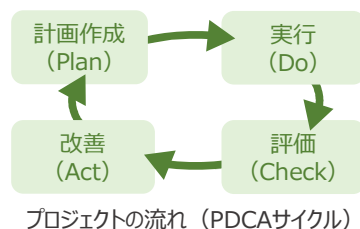
▶ 課題解決のための学習法

- ▶ 農業者自身が主体的に目標を設定し、課題解決に取り組む
- ▶ 自立心や自発心が高まり、活動は徐々に発展・拡大

【実施方式による分類】

- 個人プロジェクト
- 共同プロジェクト

- ・農業者2名以上で協力して実施
- ・初心者がプロジェクトの進め方を学ぶ方法としても適する



6

2 活動内容：個人プロジェクト支援（R4～R6）

農家概要

- ▶ 曾於市でさつまいもを生産する青年
- ▶ 令和4年からプロジェクトを開始

【経営品目】

- ・原料用さつまいも 15ha
- ・だいこん 2ha

【労働力】

- ・家族4人（本人、妻、両親）
- ・雇用2人

（さつまいも採苗・だいこん収穫期のみ）



青年の作業風景
上：妻とのさつまいも収穫
下：家族での採苗作業

8

Step 1 : 課題設定

支援内容

- ▶ 雑談を通じたカウンセリングによる課題の掘り起こし
- ▶ プロジェクト活動への誘導

採苗作業者
(母, 妻, 雇用者)

・夕方になるとからだが痛い！
・肩こりやめまいが辛い…

・家族や雇用者に対して心苦しい…
・採苗は辛い作業だから今後の人手確保が不安… → **採苗作業を楽にしたい！**

青年

プロジェクト活動に取り組むこととなった

9

Step 2 : 現状分析

支援内容

- ▶ 作業環境・姿勢分析への助言
- ▶ 農作業時の姿勢をテーマにした研究事例の情報提供

① 青年とプロジェクト前の苗床・作業姿勢の現状分析を実施

【結果】

- ✓ 苗床の高さは約10cm
- ✓ 採苗作業姿勢はしゃがみ・中腰・前屈が多い



苗床の高さが
足りない？



プロジェクト前の苗床
(慣行苗床)



採苗作業姿勢の一例
(しゃがみ・前屈)

10

② 研究事例の情報提供

- ・ 作業姿勢の「つらさ」を数値化
- ・ 姿勢の改善点の洗い出し

姿勢をつらくさせている
要素の「見える化」

【結果】

- ✓ 採苗は立ち仕事と比べて約2倍の身体負担
- ✓ 中腰やしゃがみ姿勢で、かつ深く前屈すると負担が増大

【図出典】
九冲農研「長崎県型イチゴ高設栽培の軽労化効果と収益性」(平成14年)
長崎総農林試験研「イチゴ栽培システムにおける作業姿勢に基づく農作業の労働負担測定および評価法の確立」(平成16年)より一部改変

表：作業姿勢とつらさ(身体負担)の関係

No.	つらさ 指数	姿勢	姿勢内容	身体負担 の大きさ
9	10		膝を深く曲げる 中腰 深く前屈 膝を伸ばす	3.05
8	6		中腰 深く前屈 膝を曲げる	2.20
7	6		中腰 前屈 膝伸ばし	2.15
6	5		中腰 前屈	2.00
5	5		しゃがんだ姿勢	1.95
3	4		軽く膝曲げ 軽く前屈	1.55
2	3		立って背伸び	1.50
1	1		立ち姿勢	1.10

採苗作業姿勢はNo.5~8に該当

11

Step 3 : 計画作成

支援内容

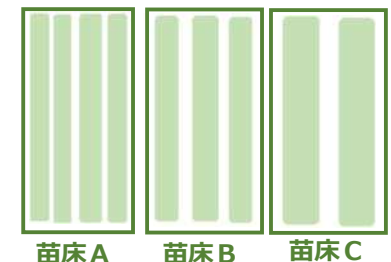
- ▶ 姿勢改善への提案
- ▶ 計画作成に係る助言

① 負担の少ない苗床の高さを調査



調査の様子

② 設計図の作成



苗床A

苗床B

苗床C

- ・ 苗床高さ30cmで負荷軽減効果
- ・ 床幅・床面積・通路幅を変えた3種の苗床A~Cを設計

12

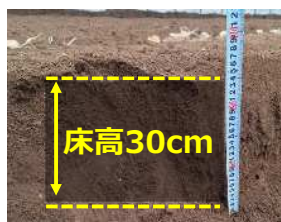
Step 4 : 計画の実行（苗床造成と採苗作業の実践）

支援内容

- ▶ 改良した苗床の形状は従来と大きく異なる
 - ➡ 造成技術，必要な機械・資材等について助言・機械の貸出
(県農業開発総合センター大隅支場と連携)



プロジェクト前の苗床



改良苗床（造成中）



借用した機械

13

採苗作業の様子

- ・ A～Cの苗床を造成し，実際に採苗作業を行った
- ・ 苗床造成・採苗・苗運搬の各作業者に，A～Cでの作業のしやすさを評価してもらうこととした

育苗床A

床幅：50cm（4畦）
通路幅：25cm



育苗床B

床幅：100cm（3畦）
通路幅：100cm



育苗床C

床幅：100cm（2畦）
通路幅：130cm



14

Step 5 : 活動の評価と改善

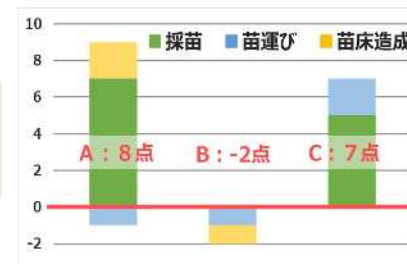
支援内容

- ▶ 適正なとりまとめに向けた助言
 - ➡ 「作業のしやすさ」の数値化を提案

✓ 数値化により各苗床の良い点・悪い点が明確になった！

- ▶ R6は苗床Aを改良
 - ➡ 改善に係る技術提案

プロジェクト目標を達成！



苗床A～Cの評価点をグラフ化

一日採苗しても
身体が痛くならない！



採苗作業者

15

個人プロジェクト支援の成果

青年の感想



- ・ プロジェクトをやってよかった！
- ・ 次は病害対策にも取り組みたい！

対象の変化

- ▶ プロジェクト活動の実践による課題解決能力向上
- ▶ プロジェクト完成の達成感
- ▶ 経営改善意欲の向上



次は乾燥機を活用した
種いも消毒に取組予定

16

プロジェクト活動の地域波及

支援内容

- ▶ 曾於地区の青年、新規就農者と現地検討会を開催
- ▶ 青年農業者会議での発表支援

- ✓ 活動を見た青年から高い関心
- ✓ 検討会に参加した青年が苗床改良に取り組み始める（R7）
 - ➡ 苗床の幅を狭めることで前屈姿勢を改善する試み

- ・ 活動の成果が地域に波及した
- ・ 将来のリーダー農業者を育成した



現地検討会の様子



影響を受けた他青年の苗床 17

活動概要

- ▶ 各自がプロジェクト活動に取り組み、結果を共有する

活動の流れ

1. 各自で技術実証計画を立てる
2. 研究会で生産工程管理システム（アグリノート）のアカウントを作成、実証ほを登録
3. ほ場の位置、作業日誌、状況、写真等をシステムに記録
4. 指導農業者をまじえた実績検討



アグリノートでの記録画面

19

共同プロジェクト支援（R3～R7）

対象組織 青年農業者組織「基腐病研究会」

設立の背景

- ▶ 当時、サツマイモ基腐病の被害が拡大
- ▶ 情報が錯綜しており、防除技術の事例収集が必要



基腐病の被害ほ場

目的

複数人で分担して様々な技術実証に取り組み、効果を比較

曾於地区農業青年クラブから10名により

令和3年3月29日「基腐病研究会」設立

18

支援内容

- ▶ 研究会の設立・運営支援
- ▶ 検討会の開催
 - 計画検討会
 - 会員ほ場での現地検討会
 - 実績検討会
- ▶ 各青年の活動に対する助言
- ▶ 指導農業者との連絡・調整



計画検討会



現地検討会

20

実績検討会

- ▶ 実証の成果を共有、相互検討
 - ➡ 自身の栽培管理を見直す機会とし、次年度対策につなげた

検討会の流れ

1. 実証結果を1人ずつ報告
2. 質疑応答
3. 指導農業士からの助言
4. 意見交換

〇〇資材の効果は…

抵抗性品種の収量は…



実績検討会の様子

21

支援の成果

- ▶ 青年間の情報交換の活発化
- ▶ 課題解決意欲の向上

これからは基腐病以外の
病害虫や生理障害
の対策にも取り組んで
みたい！

仲間と話していると
楽しくてやる気が出る！



現地検討会での意見交換の様子

22

活動の波及

- ▶ 「基腐病対策」のテーマで個人プロジェクトの実践につながった

- ✓ 共同プロジェクトと並行して
個別支援を実施

- ✓ 曾於地区外の青年農業者
会議においても発表した

【発表実績】

- ・ 曾於地区
- ・ 鹿児島県
- ・ 九州・沖縄地区
- ・ 全国



プロジェクトほ場で調査中の青年



全国青年農業者会議で入賞

23

今後の展望

【研究会の現状】

- ▶ 基腐病防除技術が確立されつつある
 - ➡ 設立当初の目標を達成

【今後の支援】

- ▶ 令和7年度からは…
「さつまいもについて幅広く意見
交換を行う組織」として支援を
継続予定

基腐病のほか

- ・ 茎根腐細菌病
- ・ 高温障害対策

などもテーマに活動予定



基腐病の発生が抑制されたほ場



茎根腐細菌病により黒変した茎



生理障害により肥大しなかったいも

24

他のプロジェクト活動支援事例

- ▶ 青年ごとに担当を設定，畑かんセンター全体で支援に取り組む
- ▶ 多様な分野の経営課題について，課題発見・実践・完成・波及まで一貫した支援を実施



作物



畜産



園芸



農福連携

25

青年農業者会議での発表実績

- ▶ 青年農業者会議…プロジェクト発表の場
- ▶ 曾於地区→鹿児島県→九州・沖縄地区→全国 の段階で開催

- ✓ 地区外にも成果が波及
- ✓ 質の高いプロジェクト活動の実践支援

【表】近年の農業者会議における受賞実績

年度	会議名	実績
R6	九州・沖縄	2部門出場
R5	鹿児島県	最優秀賞
		優秀賞
R4	全国	農林水産省経営局長賞
	九州・沖縄	優秀賞
	九州・沖縄	部門別代表選出
	鹿児島県	優秀賞



県青年農業者会議での発表

27

3 活動の成果

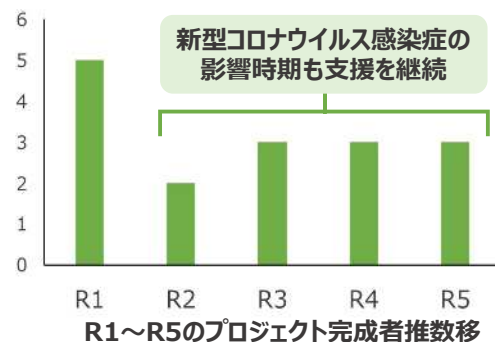
- ▶ センター全体でのプロジェクト完成者数 (H30～R5)

16人

将来の
担い手を育成

- ▶ 現在支援中の青年数

12人



感染対策を行いながらの共同プロジェクト支援



支援中の青年との調査

26

青年農業者会議での発表による成果

- ▶ 指導農業者など先輩農業者からの助言・質疑応答
- ▶ 客観的評価の獲得



指導農業者，女性農業経営士による青年への助言

- ◎ 取組のブラッシュアップ
- ◎ 経営改善意欲の向上



R6九州・沖縄地区青年農業者会議

28

4 活動のまとめ

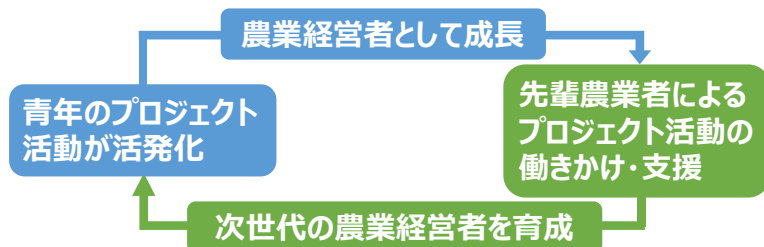
個人プロジェクトの成果

1. 課題解決能力向上
2. 達成感
3. 経営改善意欲の向上

共同プロジェクトの成果

1. 青年間交流の活発化
2. 課題解決意欲の向上
3. 個人プロジェクトへの発展

- ▶ 地域全体でプロジェクト活動を通じた担い手育成に取り組む
雰囲気づくりに向けた支援



29



ご静聴ありがとうございました

30